



スカウト運動と環境教育～環境保護への意思表示『世界環境保護バッジ』

「自然」はスカウト教育法8要素の一つとして大切にされてきました。スカウト運動において「自然」の理解や保護、自然が持つ教育的効果を最大限活用するという方針は、最初期からの不変の方針です。

そのような歴史を背景に、1973年、WOSMは世界自然保護基金国際本部(WWF International)と提携関係を結びました。第24回世界スカウト会議(ナイロビ)の開催中の締結でした。本提携に基づきスカウト全部門を対象とした『世界環境保護バッジ』が制定されました。



▲世界環境保護バッジ  
(通称パンダバッジ)



▲世界スカウト環境バッジ  
(CS:青、BS:緑、VS/RS:紫)

『世界スカウト環境プログラム』の提供

2008年、環境教育をさらに一歩進める決定がなされました(第38回会議(濟州島))。環境保護への「意思表示」をすれば着用できた世界環境保護バッジに代わり、環境保護プログラムを「履修」したスカウトのみに授与される『世界スカウト環境バッジ』が導入されました。履修が条件となったこともあり、ビーバー部門は対象外となりました。

新たな環境教育プログラム『Earth Tribe』～ビーバー部門への拡大

世界スカウト環境プログラムから10年を経て、教育プログラムがリニューアルされました。2020年より世界中のスカウトがチャレンジを始めました。日本では翻訳作業や、進級課目やチャレンジ章、技能章などとの読み替え作業を経て、2021年8月に隊長用ガイドver0.4、2022年2月に隊長用ガイドver1.0が発行されました。2022年4月下旬よりバッジの提供も始まりしました。新プログラムでは、ビーバースカウトが再度対象となりました。



神戸54ビーバーでの取り組み開始(2月)

当隊ではガイドver1.0が発行された2月より活動プログラムにEarth Tribeの要素を組み込み始めました。Earth Tribeでは「環境のことを知る」から始まります。地元の山(六甲山系の七兵衛山～横池～金鳥山～保久良山)に自然ハイクに出かけ、地元の生き物や棲息地について学び(自然と多様性プログラムSTEP1/細目1・2)、Earth Tribeバッジの着用が認められました。

ネイチャー・チャレンジ～自然と生物多様性プログラム(3月)

2月の自然ハイクに続き3月には自然工作(木の枝パチンコ作り/細目3)、春探しハイク/フィールドビンゴ(六甲全山縦走路 第1山(旗振山)～第2山(鉄拐山)/細目4・5)といった活動を行いました。



細目5は『自然や生物に影響を与えない方法』を『話し合い』ます。ビーバー年代にはなかなか難解な課題です。出発前に少し時間を設け、「今日はこれから、お山にお邪魔します。お山には、だれが住んでいますか?」「お山は僕たちのお家ではありません。お友達のお家に行ったとき、気をつけることは何でしょう?」といった投げかけを行い、ビーバー年代が想像しやすい、話しやすい工夫をしながら『話し合い』をしました。

## プラスチック・チャレンジ～健康な惑星プログラム(4～5月)



本プログラムの細目1～4は家庭での活動です。カブ部門以上ではチャレンジ章等で当たり前に行う家庭活動ですが、ボーイスカウトに入りたてのビーバー年代保護者には初めての取り組みです。事前に保護者向け説明を行うとともに、開始時にイントロダクション授業を行いました。環境省の「[プラスチック・スマート・キャンペーン](#)」が参考になりました。

細目5は神戸の海と山と街をテーマにした**神戸ハイク**(六甲山系の堂徳山～市章山～錨山～諏訪山)に組み合わせ、神戸の眺望を楽しんだ後、清掃ハイクをしながら下山しました。



## エネルギー・チャレンジ～クリーンエネルギープログラム(6～7月)

本プログラムも細目1・3・5が家庭での活動です。ちょうど環境月間(6月)でもありましたので、環境省や電力会社さんのホームページを参考に、イントロダクション授業から始めました。



細目2では**エネルギー実験&キャンプ訓練**を行いました。風力/水力発電について学び「風車」を作りました。「太陽ってすごい」を体験するため、太陽と虫眼鏡で火起こしも体験しました。夏キャンプが近いことから、起こした火で飯盒炊爨も実施。今年**50周年**を迎えた当団で、記念品として配られたメスティンを早速使いました。

細目4では夏キャンプのアクティビティの一つとして**ソーラー・クッキング**に取り組みました。夏キャンプの全体テーマ『鬼ヶ島』に絡めて『鬼も笑う美味しい太陽の焼きリンゴ』を作りました。太陽に合わせてクッカーの向きを変えたりしながら、火を使わず、太陽だけでどこまでリンゴがおいしく焼けるか、確認しました。



## 神戸54ビーバーでのバッジ着用位置

バッジ着用位置はカブ部門以上では統一されています。しかし、ビーバー部門は隊長で任意設定です。当隊では「ビーバーの進歩章や準ずる記章は制帽着用が良い」と考え、制帽右側着用としました。また記章は(カブ部門以上と同様に)統一的に着用することにも意味があると考え、近隣団にも統一を働きかけました。

## ビーバー部門での実施にあたっての工夫ポイント

Earth Tribeは始まったばかり。悩みも多々ありました。ガイドでは「7歳(小学2年生)以上」ですが、より年少の隊員も一緒に活動しています。リーダー数はギリギリ、7歳以上に絞って個別に活動する余裕はありません。チャレンジごと、細目ごとに試行錯誤しながら、活動しました。

- ① **細目自体が難しい**: ビーバー年代に合わせた、かみ砕いたプログラムへ。
- ② **チェックリスト**: 保護者へ事前説明を実施し、保護者からフォロー。文字が書けない年代は代筆も許容。
- ③ **1回の活動で終わらない**: 複数回にわたることを前提にしたストーリー性のあるプログラムを企画。前回の活動が思い出せる仕組みを導入。



とはいえ、ビーバー部門にこのような体系的プログラムが導入されたことは非常にうれしいこと。今後もEarth Tribeの改良や、新たなプログラムがどんどん開発されることを期待しています。

▲最新の取り組みは神戸第54団のホームページで紹介